

やまゆり

学校だより

令和4年12月20日
73号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行する一
校内研究主題 「WEBQUを活用し学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点 「確かな学力の育成」・「豊かな心の育成」

「税についての作文」で表賞されました

12月13日(火)に3年生の「加藤三佳」さんと「千々輪光史」さんが税についての作文表賞を受けました。当日は、大月税務署の理事の渡邊さんと統括国税徴収官の伊沢さん、佐藤教育長、村役場の菅谷総務課長の4名が本校を訪れて表賞をしていただきました。また、税についての作文を数多くコンクールに出品したことで学校賞を頂きました。税についての正しい理解と社会を支える重要性を訴える作文について高く評価していただきました。

村長賞 加藤 三佳さん 教育長賞 千々輪 光史さん

佐藤教育長から賞状を受け取る三佳さんと光史さん



多くの応募作品により学校賞も頂きました



参加者の全体写真



学校教育重点 「健やかな身体の育成」

三浦栄養教諭が「食育指導」をしています

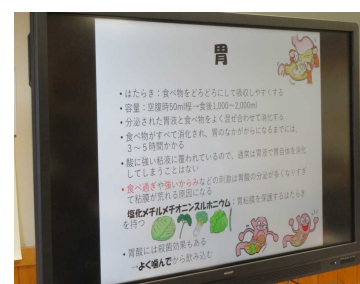
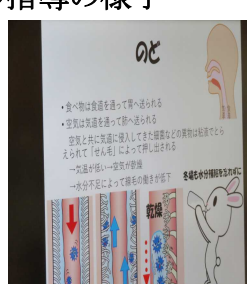
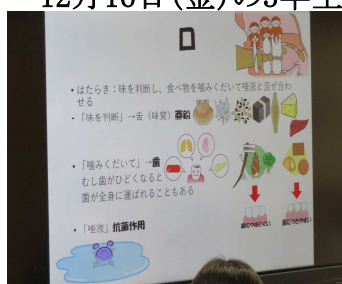
先週の12月12日(月)～16日(金)までの間に、**栄養教諭の三浦千明教諭**が1年から3年生に各教室で「食育指導」をしました。三浦教諭は、**小学校との兼務で中学校の指導**もしています。

栄養教諭は、**専門性の高さを生かし食育の指導**をしています。しかし、**前任の都留市にも2名しかいない貴重な指導者**です。今回は、「**寒さに負けないで冬を元気に過ごすための手や口等の各機能や、その機能を十分に発揮するための知識や技能**」を指導していただきました。

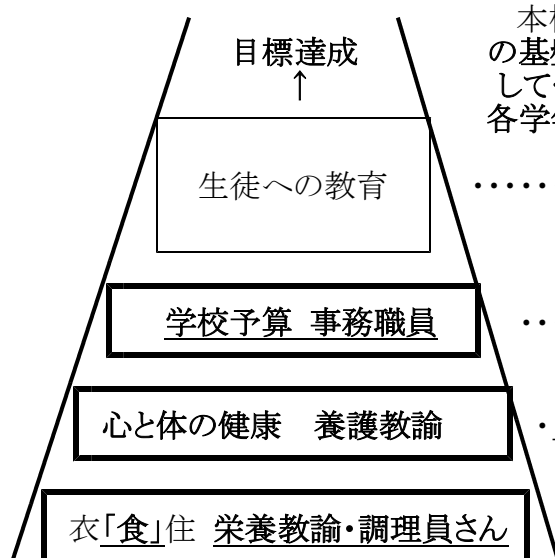
ICTを活用し短時間で分かりやすく説明してくれました



12月16日(金)の3年生の指導の様子



「チーム学校」の理解と感謝の心



本校の2学期の多くの成果を支えてくれたのは、**教育活動の基盤である「食や健康や予算」に関わる仕事の責任を果たしてくれた先生方のお陰**です。そのしっかりした基盤の上で各学年や教科・部活動等の成果を得ることが出来ました。

.....→教科指導や部活動、学園祭、校外学習、受験等の**直接指導**をしている各学年・教科担当等

...→上芝事務職員の事務手続きと予算執行

・)→宮本養護教諭の心と体の保健指導・予防・対応

→三浦千明教諭・3名の調理員さんの毎日の給食

学校教育重点 「豊かな心の育成」・「対外機関との連携」

SNSの「適切な使い方」や「依存」について考えましょう

昨日12月19日(月)に大月警察署生活安全課の若狭さんと萩原さんが、本校生徒にSNSに関する防犯についての指導をして下さいました。また、指導していただいた後に、各学年で話し合いをし、出された意見からSNSについての適切な使い方について確認をしました。

若狭さんは、道志の駐在所で勤務していた経験から、真面目で純粋な道志の生徒が犯罪に巻き込まれることが無いように一生懸命指導して下さいました。また、「困ったことがあったらいつでも生活安全課の若狭に相談して欲しい」と親身になって生徒に呼びかけて下さいました。

本校の生徒も携帯電話を3分の2程度の生徒が持っています。携帯電話は適切に使えば、大変便利な道具です。しかし、携帯やゲームを毎日2時間以上利用している生徒が大勢いることも分かりました。毎日2時間以上の利用は、「携帯依存・ゲーム依存」の心配があります。そのうえ、今後は冬休みを迎え、さらに利用時間が延びる可能性があります。

保護者の皆様へのお願い

各家庭でお子さんとしっかり話し合い、SNS等の使い方によって友人とのトラブルやいじめを予防し、被害を避け、健全な冬休みを過ごせるようにご協力をお願いします。



生徒から出たSNS利用に関する主な意見

- 誹謗や中傷、仲間外しなど相手の人権や心を傷つける情報発信をしない。
- 個人が特定される情報や写真などの画像の発信をしない。
- フィルタリングなどのセキュリティをかける。(保護者の責任として是非お願いします)
- 困ったら人に相談する。
- 心に隙をつくらないように、勉強や部活動等の目標をしっかり立てて努力する。

学校教育重点 「居心地良くやる気のある学級集団づくり」

全校レクリエーションや教職員との相談を意図的に実施しています

不登校生徒24万5千人。その理由の1位は、「孤立・孤独・不安・緊張・やる気の低下」です。

以下は12月18日の不登校に関わる河村茂雄先生のご講演の一部です。

真面目で一生懸命取り組む生徒。しかし、我慢してしまい自らは相談をしない。友人関係が浅かったり、秘密が知られるのを防ぐために悩みや不安を友人に相談しない。人間関係が苦手な孤立感や孤独感がある。不安や緊張感が高まり、主体性が低下する。ストレスの発散の仕方を知らない。体調が良くないために、やる気が起きない。コロナ禍で家庭環境や経済力が悪化。部活動や勉強などが苦手な、一生懸命になれることがない。家族には大事なことや困っていることを相談できない等。また、保護者が全て決めてしまい、「生徒に自己選択や決定権を持たせない」ことによる思春期の不満や悩みによる主体性の低下や不登校。

他人事ではなく、本校の生徒にもこのような傾向があり、対応が必要と考えています。

そこで本校では、計画的に全校生徒への相談やレクリエーション等を企画して実践しています。

年度末は、事務仕事も多く教職員は本当に大変な時期です。しかし、いじめや不登校の予防を優先順位の第一と考えて実行しています。

部活動や行事、校外学習等も基本的には全て実行しています。それは、生徒のやる気や感動を減らしたくないからです。

しかし、働き方改革の面では11月・12月はかなり厳しかったのが現実ではあります。

昨日は、全校生徒の個別相談日で、校長・教頭も希望者と相談をしました。15分程度の短い時間でした。私は2名の生徒に校長との面談の動機を聞きました。一人は、「普段は校長先生とは話す機会もないが、芸術鑑賞の時に話して楽しかった。また話したいと思った」。もう一人は、「国語の学習方法について聞きたいことがあった」とのことでした。それ以外にも、将来の職業や趣味、家族のことなどたくさん話しました。生徒からの質問も多く、「なぜ、校長先生は中学の国語の教員になったのか」と聞かれもしました。笑顔で語り合ったわずかな時間でした。

勉強や部活動では得ることができない、「ゆとり」と「豊かさ」を感じました。レクリエーションでは、「楽しさを実感」してほしいと願い、昨日の面談では「楽しかった」、「勇気づけられた」、「心が軽くなった」と思ってくれたらと願っています。